

PHARMACY DIGEST

10

2018 October

【巻頭インタビュー】…… 2 P

* 臨床検査値の処方箋記載を活かすため 丁寧な研修と疑義照会の後押しで薬局を支援 患者さんのための薬薬連携を目指して

公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター 薬剤部長 橋本真也

同センター 薬剤部担当係長 小杉三弥子

株式会社五番街ファーマシー 代表取締役／横浜市南区薬剤師会 理事 德里政嗣

【新連載／薬薬連携 ～薬剤師が変わると病院が変わる～①】…… 5 P

* 薬剤師業務に起こすべきパラダイムシフト

ファルメディコ株式会社／医療法人嘉健会 思温病院 理事長 狭間研至
大阪大学大学院医学系研究科統合医療学寄附講座 特任准教授

【To Best Pharmacy ～愛されるかかりつけ薬局を目指して～】…… 6 P

* 有限会社松本薬局 (和歌山市) / 株式会社浅井薬局 (愛知県津島市)

* 【今月のおすすめ「食事療法レシピ」】さんまのエスカベッシュ…… 8 P



巻頭インタビュー

臨床検査値の処方箋記載を活かすため 丁寧な研修と疑義照会の後押しで薬局を支援 患者さんのための薬薬連携を目指して

横浜市立大学附属市民総合医療センター(726床)は、横浜市南区で唯一の総合病院として、また前身を含めて140年以上この地で医療を提供してきた医療機関として地域住民に親しまれている。同院薬剤部では、2003年ごろから近隣保険薬局や地区薬剤師会との薬薬連携に注力してきた。2015年12月には院外処方箋への臨床検査値記載を始め、薬局からの検査値に基づく疑義照会の増加やプレアボイドなどの効果も見られている。同院と薬局の、双方の視点からお話を伺った。

医薬分業のシステム連携から 学術的な連携へと発展

—はじめに、貴院についてご紹介ください。

橋本 当院は横浜市立大学医学部附属病院の分院なのですが、もとはこの地に本院として開設され、140年以上の歴史を有します。病床数は726床で、2007年に大学病院としては初めて地域医療支援病院に認定されました。高度救命救急センターを持ち、高度急性期医療を提供する傍ら、横浜市南区で唯一の総合病院として幅広い疾患にも対応しています。

—保険薬局との薬薬連携は、いつごろから取り組んでこられたのですか。

橋本 医薬分業は1990年ごろから徐々に取り組んでいましたが、連携に本格的に乗り出したのは2003

年ごろからです。その4~5年前から、定期的に薬局の先生方と話し合う場は持っていたのですが、当時は、コスト削減のため院外処方率を高めようという病院経営主体の連携でした。そんな折に薬局からのクレームを受け、「経営ではなく連携について協議する会議体が必要」であることを痛感し、当院と横浜南部医療圏に属する5区の薬剤師会とで連携協議会を立ち上げました。

まず、薬局の先生方の要望を伺い、処方箋を工夫して見やすくするなど、薬薬連携におけるシステム面での改善に取り組みました。連携協議会の設立を契機に、病院側から一方向的にお願ひするより、薬局側の意見を伺うことのほうが多くなりました。

—薬局との合同研修会も頻繁に行っていますね。

橋本 連携協議会の次のステップとして学術的な連携に取り組もうと、2014年3月に連携研修会を開催しました。当初は、横浜市南区薬剤師会が企画する研修会に当薬剤部が参加していたのですが、その後、当院と南区薬剤師会が合同で企画するようになり、現在は年間10回程度開催しています。勉強の場を通じて顔の見える関係を作ること目的のひとつでしたが、当院の医師が講師を務めたりすると、薬局の先生方にとっても、普段は処方箋で名前だけを知っていた医師と顔を合わせるよい機会になったようです。

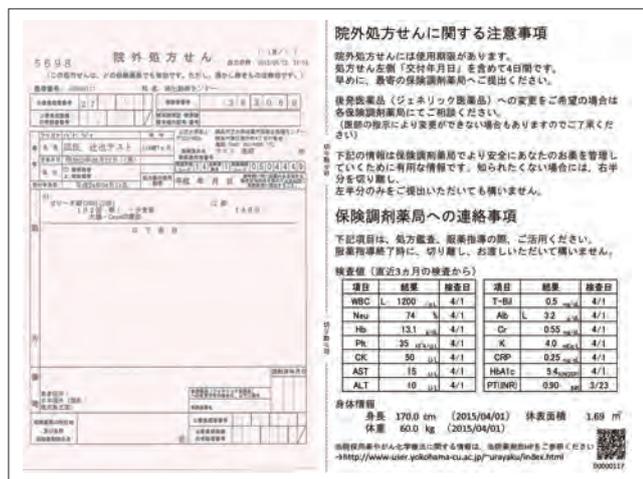


図1 横浜市立大学附属市民総合医療センターの院外処方箋様式

(資料提供: 横浜市立大学附属市民総合医療センター薬剤部)

薬局からの照会を経た医師の処方変更率60% 検査値記載で疑義照会の質に変化

—連携の歴史は長いんですね。今では、点滴の抗が



小杉 当初、医師からは「その時点の検査値だけを捉えて、問い合わせさせても困る」といった意見もありましたが、結局クレームは出ていません。検査値の共有で、用量が急に減っていても「腎機能が低下しているから減量したのだな」と、医

師の意図した変更であることが薬局でも把握できるようになりました。その結果、確認のための問い合わせが減ると同時に、「血清クレアチンが高いですが、この用量でいいですか」といった、医師にとっても有用性の高い照会が増えたためだと考えています。

——薬局側においても、変化を感じておられますか。

橋本 2015年12月から院外処方箋への検査値記載を導入したのですが、検査値由来の疑義照会件数がかなり増えました。記載前は2カ月間で2件だったのですが、記載後には20件と有意に増え、1年後も17件と、その件数をほぼ維持しています(図2)。取り組み前に、医師側は「余計な問い合わせが増えるのではないか」と懸念していたようなのですが、疑義照会件数そのものは記載前後で大きな変化はなく(図3)、疑義照会の質が変わったということだと捉えています。

——薬局側においても、変化を感じておられますか。

德里 以前は電話で「この用量で問題ありませんか」と問い合わせをしても、医師から「それでいい」と一言で返答されることもありました。それが、検査値を踏まえた具体的な疑義照会がしやすくなり、医師もこちらの話を聞いて、処方変更を受け入れてくれることが確実に増えました。やりがいがありますし、処方提案の機会も以前より増加しています。

橋本 検査値由来の疑義照会を受けての医師の処方変更率は、以前より上がっています。検査値の記載直後で約60%、1年後では約70%でした(図2)。これは

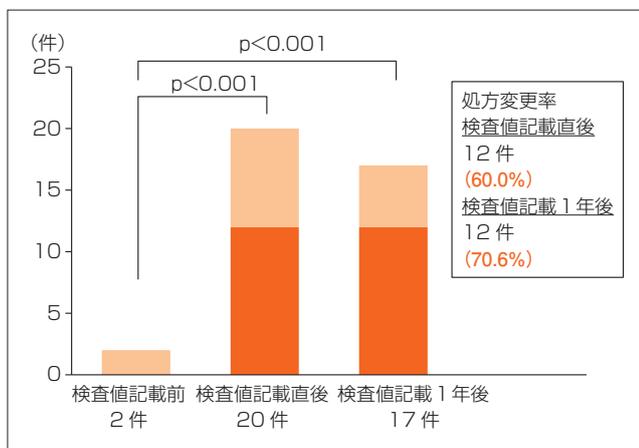


図2 検査値記載前後および1年後における検査値関連疑義照会件数と採択率の推移

(資料提供: 横浜市立大学附属市民総合医療センター薬剤部)

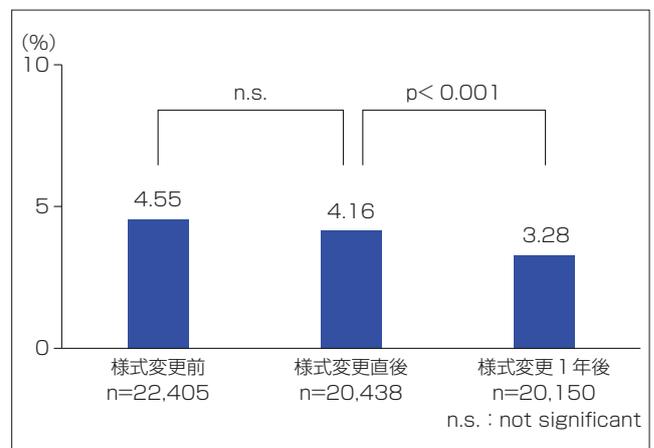


図3 検査値記載前後および1年後における疑義照会率の推移

(資料提供: 横浜市立大学附属市民総合医療センター薬剤部)

■ 横浜市立大学附属市民総合医療センターの概要 ■

1871年全国で2番目の洋式病院として設立。横浜市立大学医学部附属浦舟病院などを経て現在に至る。2007年に大学病院として全国で初めて地域医療支援病院に承認。20専門診療科、病床数726床(本館679床、救急棟47床)。高度救命救急センターを有し、神奈川県総合周産期母子医療センター、神奈川県精神科救急医療基幹施設、地域がん診療連携拠点病院など高度医療を担う。1日平均外来患者数2,037.2人、平均在院日数12.8日、病床利用率88.2% (2016年度)。

■所在地：神奈川県横浜市南区浦舟町4-57

■URL：<https://www.yokohama-cu.ac.jp/urahp/>



■ 横浜市南区薬剤師会の概要 ■

設立から今年で71年、横浜市の中心部に位置し、約19万5,000人(2018年8月現在)の人口を擁する南区の地域医療を支える。2018年9月現在、60薬局薬店の経営者ならびに勤務薬剤師で構成。

■会長：肥後保仁

■URL：<http://www.ympa.jp/index.html>

他院と比較しても高い数字だと思います。重い有害事象を未然回避できたプレアボイドの事例もありました。

検査値記載導入前に半年で5回の研修実施 積極的な疑義照会を病院が後押し

—検査値記載があっても、その情報を活かした疑義照会が増えないというケースも聞きますが、貴院でうまく仕組みが機能している要因をどうお考えですか。

橋本 導入前に丁寧に研修をしたことが大きいと考えています。連携研修会を始め、横浜市薬剤師会や製薬会社とタイアップした研修会などいろいろな形で行ったほか、当院独自の短期集中研修も開催しました。

小杉 検査値シリーズとして、記載を始めるまでの半年間に5回実施しました。当院の薬剤師が、糖尿病、肝機能、腎機能、血液関連など毎回領域を絞って講義しました。当院の処方箋捕捉率は近隣薬局だけで65%を超えているため、短期集中研修は近隣薬局を中心に声を掛けたのですが、とても関心が高く、参加者は100人を超えるほどでした。

今でも、毎年1回は検査値をテーマにした研修を行うようにしています。昨年は血液領域がテーマでしたが、リンパ腫などの話に、ヘモグロビンなどの検査値の説明を交えてもらいました。出席者の皆さんの知識も深まってきているので内容も工夫しています。

徳里 薬局薬剤師にとって検査値は、普段あまりなじみがありません。処方箋への記載に際して、病院側が検査値の種類ごとに掘り下げた研修をしてくれたことは大変役立ちました。

—そのほか、工夫されたことはありますか。

橋本 院内で処方箋様式を考えるに当たり、「検査値は誰のものか」「誰の判断で薬局に検査値を渡すのか」ということは議論しました。病院が、薬局で検査値を渡すように患者さんに案内したら、病院が薬局に検査値を提供している格好になります。そうではなく、まず処方医が患者さんに

検査値を渡すか判断し、それを薬局で出すかは患者さん自身が決める形がいいのでは、という結論になりました。そこで、処方箋にミシン目を入れ、医師や患者さんが自分の判断で検査値部分を切り離せるようにしたのです。ただ、患者さんには「薬局で検査値を渡すと、お薬のチェックがしっかり受けられますよ」と、アナウンスもしました。

—医師や患者さんの反応はいかがでしたか。

小杉 医師にはいいのですが、患者さんの中には切り取る人もいました。ただ、知られたくないというより、医師が自分にくれた検査結果を保管するための方でした。ですから、検査値記載の目的や、薬局で検査値を渡しても希望すれば返してもらえることなどをお伝えし、ポスターやチラシも外来に置きました。薬局の先生方には、処方箋に検査値が付いていなかったかを、患者さんに聞いてもらうようお願いしました。

徳里 当薬局ではほとんどの患者さんがそのまま処方箋を出していただきます。ただ、検査値に関する疑義照会が増えた理由としては、患者さんが検査値を渡してくれるだけでなく、病院から「検査値を疑義照会に役立ててください」と、アナウンスがあったことも大きかったと思います。薬局側としては、検査値が記載されていても、医師相手に積極的に電話で問い合わせてもいいものなのか、ためらうところはありましたが、病院からの後押しで、「積極的に問い合わせてもいいのだ」という気持ちになりました。

—そういった病院側のフォローは重要なですね。次回は、病院と薬局がどのように連携体制を育んでいったのか、引き続きお伺いしたいと思います。

薬薬連携

~薬剤師が変わると病院が変わる~

ファルメディコ株式会社 / 医療法人嘉健会 思温病院 理事長
大阪大学大学院医学系研究科統合医療学寄附講座 特任准教授
医師・医学博士 狭間 研至



第1回 薬剤師業務に起こすべきパラダイムシフト

医薬品適正使用上の諸問題が残るのは 薬剤師の専門性が活かされていない証左

皆さま、こんにちは。狭間研至です。今号から新たに、薬薬連携をテーマにした連載を担当いたします。薬薬連携は薬剤師にとって、古くて新しい、そして普遍的なテーマだと思います。

私自身は、医師としてのキャリアをスタートさせたあと、卒後10年が経過したころに実家の薬局運営に参画。当初は薬局経営者として、薬局や薬剤師のあり方について考えたり、試行錯誤をしてきました。このときに考えた薬剤師の強みや専門性は、当初は仮説でしかありませんでしたが、2008年ごろから在宅訪問診療に医師として関わるようになり、その現場で多くの薬局薬剤師と仕事をしていく中で、実感、そして確信に変わっていきました。そしてたどり着いた一つの結論が、「薬剤師が、薬をお渡しするまでではなく、飲んだ後までフォローすれば、薬物治療の質は飛躍的に向上する」ということでした。

今の薬剤師は、ともすれば、薬をお渡しするまでの部分をいかに早く、正しく、分かりやすく行うかということに専念してきたのではないかと思います。これは極めて重要なことですが、機械化やICT化が飛躍的に進んだことに加え、医療費適正化を目指す中で調剤報酬のあり方が見直され、医薬分業制度そのものの再評価がなされてきました。さらには、ポリファーマシーや多剤併用、残薬など、医薬品の適正使用上での問題が明らかになるにつれて、薬局や薬剤師そのもののあり方にも疑義が生じかねない状況になっています。特に、この数年の調剤報酬改定の有り様は、「調剤薬局」というビジネスモデルの存続が危ぶまれかねない状況になっており、薬学教育6年制時代の本格的到来も相まって、まさに業界は混沌としています。

ただ、この混沌の状況を読み解くのは、「薬をお渡しするまでではなく、飲んだ後まで」という薬剤師の

あり方のパラダイムシフトだと考えてきました。それは、薬剤師が薬学部で学ぶ、薬理学・薬物動態学・製剤学といった概念は、薬が身体に入った後に活かされるものなので、薬が身体に入るまでしか担当しない業務であれば、薬剤師の本当の専門性は活かされず、そのために多剤併用や薬剤性有害事象、ポリファーマシーといった問題が残っているのではないのでしょうか。

薬剤師のパラダイムシフトが起こした変化を 自ら運営の病院で実感

このパラダイムシフトに不可欠なものの一つが、バイタルサインの手技や知識、さらには、そこに薬学的アセスメントを加えたフィジカルアセスメントであり、薬剤師の薬学的な見立てを、医師に適宜フィードバックすることで、患者の薬物治療の質は飛躍的に向上するというのを、主に在宅医療の現場で実践してきました。前号まで3年にわたった私の連載は、この部分を皆さまと共有させていただいたものです。

そして、私は2015年から、病床数が200床を少し切る大阪市内の中小病院の運営にも携わることになりました。そこでいろいろな取り組みをしていますが、その一つが、病院薬剤師も「薬をお渡しするまでではなく、飲んだ後までフォローする」というパラダイムシフトを起こすことでした。実際、私の着任直後は、当院の薬剤師は多忙を極め、限られた人材で必死に業務をこなしていましたが、やはり「お渡しするまで」といえばそこまでの担当でした。それから3年あまり。今も多忙かつ限られた人材であるのは変わらないものの、薬剤師のパラダイムシフトによって病院は大きく変わりつつあり、最終的には薬薬連携にも変化が及び始めています。

本連載では、私の病院での活動を踏まえて、また、皆さまとあるべき薬剤師や医療の姿を考えていきたいと思っています。引き続き、どうぞよろしくお祈いします。

File. 76

有限会社松本薬局

(本社：和歌山市)

**地域の健康を支え 創業100年余
患者個々に適した対応心がけ さらになる向上へ**

創業より100年以上、和歌山で医療を支える松本薬局。かかりつけ薬局として、常に向上を目指す同社は、患者個々に適した接遇ができるようスタッフ間での情報共有にも努める。地域医療に欠かせない在宅業務にも力を注いでいる、同社旭橋店の松本英治氏にお話を伺った。



▲旭橋店薬剤師 松本英治氏

—はじめに、貴社の概要をご紹介ください。

松本薬局は創業明治24(1891)年。以来、100年以上和歌山の地を守り続け、現在は和歌山市内に6店舗、医薬品・医薬部外品・機能性化粧品から健康食品などの商品を取り扱い、地域の皆様の健康をお手伝いしています。薬や日用品のお届けはもちろん、24時間対応、日曜、祝日の調剤対応も強みのひとつです。今夏には新店舗もできる予定になっており、さらなる向上を目指していきたいと思っています。

—ここ松本薬局旭橋店では、調剤をメインに活動しているそうですね。

旭橋店は外科、内科、消化器科、循環器科、肛門科など、さまざまな分野の診察を行っている病院の門前薬局ですので、薬の品目数も多く、私自身も日々勉強になっています。

スタッフ間では、患者様のことを話し合うことが多く、症状はもちろん、性格やコンプライアンス、一人暮らしか家族がいるのか、薬の管理は誰がしているの

かといった背景を知ることによって、患者様一人一人に適した接遇ができるよう心がけています。

—地域医療への取り組みについては、どのようなことを行っているのですか。

病院が経営している老人ホームに毎週訪問し、配薬や日用品販売を行っています。このときに感じた患者様の状態、服薬状況などを医師や施設のスタッフにフィードバックし、よりよい医療を提供できるようお手伝いしています。

さらに多職種連携会にも参加し、医師、ケアマネジャー、訪問看護師など他職種の方々と医療・介護のネットワークを構築して、顔の見えるつながりの強化に取り組んでいます。

これからも地域の皆様に愛され続ける薬局を目指して向上していくとともに、今後の地域医療に欠かせない在宅業務にもより一層力を入れていくつもりです。そして、生まれ育ったこの地域を守るよう、自分自身も精進していきたくと思っています。



◀スタッフ間ミーティングによって情報の共有化に努める。

▼顔の見えるつながりを強化するため多職種連携会にも積極的に参加。



▲松本薬局旭橋店の外観。



▲松本薬局旭橋店のスタッフ。

基本 DATA

本社所在地：和歌山県和歌山市和歌川町10-18／創業：1891年／店舗数：6
店舗／従業員数：21名(内、薬剤師10名)／URL = <https://www.m-d-s.jp/>

File. 77

株式会社浅井薬局

(本社：愛知県津島市)

**在宅医療への対応を強化した店舗づくりに注力
住民の多様なライフステージ支える薬局へ成長目指す**

社は「愛され、親しまれ、信頼される薬局への成長」を目指して、愛知県津島市を中心に店舗展開している浅井薬局。新店舗へ移転した浅井薬局橋店に、無菌調整に対応できるクリーンルームを設置するなど、在宅医療をより積極的に進めていくための取り組みを進めている。専務取締役の浅井行治氏にお話を伺った。



▲専務取締役 薬剤師 浅井行治氏

—はじめに、貴社の概要をご紹介ください。

浅井薬局は1952年に愛知県津島市の天王通りに創業し、津島市を中心に店舗を展開しています。

薬局の機能を強化するため、2017年5月に浅井薬局橋店を新店舗へ移転しました。新店舗には在宅医療での無菌調製に対応すべくクリーンルームを設置したほか、検体測定、個別相談などに対応できる多目的室もあります。多目的室にはクリーンパーテーションを導入、インフルエンザの流行期には隔離室としても利用できます。また薬局で使用する電力は、太陽光発電によりまかない、災害時にも薬局機能が維持できるよう備えました。

—多職種の方々とも積極的に情報交換を行っているとか。

在宅医療をより積極的に進めていくために、ケアマネやヘルパーなど多職種の方々を対象とした情報交換会を定期的に行っています。また、地域の多職種連携の勉強会にも進んで参加し、講演なども行っています。

このような勉強会の開催、参加は連携のための顔の見える関係づくりに繋がっています。

—在宅医療における患者さんへの対応についてはいかがでしょうか。

主に個人宅へ伺っています。毎回さまざまな問題に突き当たりますが、その都度スタッフで知恵を出し合い、他職種とも連携し、患者さんに向き合っています。安心して自宅で過ごしている患者さんの笑顔を見られるのが、うれしい瞬間です。自宅で穏やかに過ごせるよう、薬剤師という立場から、患者さんやご家族に寄り添っていきたく思います。

また、健康サポート事業にも力を入れ、健康体操の定期開催、検体測定も行っています。そして、日々の業務で得た知見や経験をまとめ、学会発表などにも積極的に挑戦していきたいと考えています。

地域の皆様のライフステージにおけるさまざまな場面でサポートできる薬局へと、さらに成長し続けていきたいと思っています。



◀毎週木曜日に体操教室を開催している。



▲地域の基幹病院との薬業連携での発表。



▲浅井薬局橋店のスタッフ。

在宅医療 気軽に情報交換



◀地元紙に、多職種との情報交換会の記事が掲載された。



◀検体測定室、相談室、隔離室として利用できる多目的室。

基本 DATA

本社所在地：愛知県津島市天王通り6-3 / 創業：1952年 / 店舗数：7店舗 / 従業員数：37名(内、薬剤師16名) / URL = <http://www.asai-pharmacy.co.jp/>

今月のおすすめ「食事療法レシピ」



さんまのエスカベッシュ

このような傾向の方におすすめ

- 糖尿病 ●高脂血症 ●肥満 ●高尿酸血症・痛風

エスカベッシュは、和食で例えると南蛮漬け。小麦粉をつけて焼いたさんまときのこ、野菜を合わせ酢に漬け込みます。冷たく冷やしてもおいしくいただけます。

◎管理栄養士からのレシピポイント

野菜やきのこに含まれる食物繊維には、血糖値の急激な上昇を抑える働きがあります。さんまに含まれる EPA や DHA には、中性脂肪や LDL コレステロールを減らし、HDL コレステロールを増やす働きがあります。

材料（2人分）

さんま（3枚おろし、正味） 80g
 塩、こしょう 各少々
 小麦粉 大1
 オリーブ油 小2
 玉ねぎ 1/2個
 えのきだけ 100g
 パプリカ（赤） 20g
 A 酢 70mL
 砂糖 大1 1/3
 塩 少々
 パセリ 適宜

作り方

- ①さんまは食べやすい大きさに切って塩をふり、10分おいて水けをふき取る。こしょうをふり、小麦粉をまぶす。
- ②玉ねぎ、パプリカは薄切りにし、バットに広げておく。
- ③フライパンにオリーブ油を熱して①を焼き、空いているところで食べやすく切ったえのきだけを炒める。
- ④③の火を止め、Aを回し入れる。熱いうちに②にのせ、時々かき混ぜながら漬け込む。
- ⑤味がなじんだら器に盛り、みじん切りにしたパセリを散らす。

- 塩分（1人前） 1.1g
- カロリー（1人前） 249kcal
- 調理時間：20分
- 分類：主菜
- 難易度：簡単
- ジャンル：洋



©Nippon Chemiphar Co., Ltd.

そのほかのレシピもご紹介しています。詳しくは日本ケミファホームページへ。 <http://www.chemiphar.co.jp/>

発売準備中

薬価基準未収載

日本ケミファの平成30年12月発売予定品目

慢性疼痛 / 抜歯後疼痛治療剤

劇薬・処方箋医薬品[※]

トアラセット配合錠「ケミファ」
 〈トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠〉
 製造販売元:日本薬品工業(株)



(剤形イメージ)

ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤

劇薬・処方箋医薬品[※]

ミルタザピン錠 15mg・30mg「ケミファ」
 〈ミルタザピン錠〉
 製造販売元:日本ケミファ(株)



(剤形イメージ)

注)注意 - 医師等の処方箋により使用すること

- 効能又は効果、用法及び用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等につきましては添付文書をご参照ください。



販売元(資料請求先)
日本ケミファ株式会社
 東京都千代田区岩本町2丁目2-3 H30-8

おくすりに関する資料及び製品に関するお問い合わせ先

日本ケミファ株式会社 くすり相談室(安全管理部)

受付時間 8:45~17:30 土日・祝祭日を除く

TEL 03-3863-1225 フリーダイヤル 0120-47-9321

PHARMACY DIGEST [2018年10月号]

発行日 ■ 2018年10月1日

発行 ■ 日本ケミファ株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2丁目2番3号

TEL: 03-3863-1211 (大代表) URL: <http://www.chemiphar.co.jp>

製 作 ■ 株式会社ドラッグマガジン / 印 刷 ■ 広研印刷株式会社